



学校教育目標

進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子

TEL (048) 222-4383

児童数 男子487名 女子476名 計963名

FAX (048) 222-9388

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子



「一番大きな石」の話

校長 石井 宏明

学校たんけん(1年)に町たんけん(2年)、水泳授業、キャンドルサービス(5年)と、感染症防止対策を講じながら、「集団感染を起こさない」「子供たちの学びを止めない」を合言葉に、保護者・地域の皆様のご理解ご協力をいただきながら教育活動を進めております。

また、昨年度3月に市内の医療従事者への応援メッセージとして作成し、学校応援団推進委員様を通してお届けした「桜の木」へのお返事を川口市立医療センター、協同病院のみなさまからいただき、教職員をはじめ、子供たちもビックリ、拍手、大喜びでした。正に「心」のキャッチボールです。

さて、こんな話があります。

「さあ、クイズです。」

ある授業で、教師がそう言って大きな壺を取り出し、教卓の上に置きました。

そして、その壺に一つ一つ石を詰めていきました。

その壺がいっぱいになるまで石を詰めると、教師は子供たちに聞きました。

「この壺は、もう満杯ですか？」 教室中の子供たちが、「はい」と答えました。

「本当に？」

教師はそう言いながら、教卓の下からバケツいっぱい砂利を取り出して、壺の中に流し込みました。

石と石の間を砂利が埋めていきました。

そして、もう一度聞きました。

「この壺は、満杯ですか？」

一人の児童が、「たぶん、ちがうと思います。」と答えました。

教師は、「そうです！」と笑い、今度は砂利よりももっと粒の細かい、砂の入ったバケツを取り出し、それを石と砂利の隙間に流し込んだ後、3度目の質問をしました。

「これで、この壺は満杯になりましたか？」

子供たちは、声をそろえて「いいえ」と答えると、教師は水差しを取り出し、その水を壺の淵までみなみと注ぎ、その後、こう言いました。

「先生が、何が言いたいか、わかりますか？」

一人の子供が手を挙げ、

「どんなにいっぱいいっぱいだと思っても、創意工夫や努力をすればまだまだ詰め込むことができるということですか？」

「それは違う。」「重要なポイントは、そこではないのですよ。」

「実はね、この例が私たちに示しているのは、『先に大きな石を入れないと、それが入る余地は、その後二度とない』ということなのですよ。」

「大きな石とは、将来の夢であったり、家族であったり、みなさんにとって一番大切なものを表しているのですよ。」「それを一番に壺の中に入れなさい。」

石。一番大きな意志。

「一番大切なものを、毎日一番大切にしながら生きていきましょうね。」

石井にとって一番大切なもの。しわすだの子供たちと教職員の健康と笑顔です。大切にします。